

脱炭素で企業価値向上

協伸静塗 SBT認定取得

金属製品の表面処理、塗装を手がける協伸静塗(高岡市吉久、加藤一博社長)

は、国際的な温室効果ガスの削減目標「SBT」の認定を受けた。脱炭素を進めることで業務の効率化を図るとともに、環境負

荷の低減に取り組んでいることをアピールし、企業価値を高める。

同社は2030年の温室効果ガスの排出量を18年比で50%削減する目標を設定。7月に中小企業版のSBTの認定を取得した。

太陽光発電で工場の消費電力の4分の1程度を賄えるようにしているほか、

今後は製品の配送コースを見直し、車両の燃料使用量を削減。工場の工程では、金属の塗装色を削減することで電気使用量を抑える。



協伸静塗の工場に設けた太陽光発電設備―高岡市吉久

ズーム

SBT Science Based Targetsの略で、科学的な根拠に基づいた温室効果ガス排出量の削減目標。国連グローバルコンパクト(UNGC)、世界資源研究所(WRI)などで行う国際的な枠組みで、事務局が企業の削減目標、取り組み内容を認定する。達成目標は2015年のパリ協定に基づくもの。認定により、投資家や金融機関からの資金調達が可能になることもある。

こうしたエネルギー使用の抑制によってコストを抑えることができ、収益性の向上につながる。塗装色の制限は、取引先に対するサービスの後退ともなりかねないが、サプライヤーにも高い削減目標を求める大手のSBT認定企業も多く、環境負荷の低減に努める方が顧客の獲得につながるかと判断した。